

情報処理科・経営管理科 2年A・B・C・D組

教科名	数学	科目名	数学 A (2単位)
使用教科書	最新 数学A (数研出版)	副教材等	3 ROUND 数学 I + A (数研出版)

1 科目のねらい (目標)

場合の数と確立、整数の性質又は図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。

また事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用できるようにします。

2 科目・授業の内容と進め方

数学Aで到達すべき、集合・場合の数・確率・整数の性質・平面図形の内容について、教科書の例題で基本的な解法について身に付けてから、副教材で類題を多くこなすことで、習得と目指します。

また、疑問に思うことは自分の納得するところまで、最後まであきらめずに取り組んでいこうという姿勢を大切にしています。授業の進度もそれに合わせて、柔軟に進めていきます。

3 学習の方法

- ・ 絶えず世の中の自然現象や社会現象に疑問を持って生活してみましょう。「なぜ、雨は降るのか。なぜ、月は姿を変えるのか。なぜ、石油の値段が上がるのか・・・」これらの事象には全て理由があります。その理由を探ってみようとする気持ちが大切です。数学はそんなとき大いに役立ちます。
- ・ 他人の考えは大切にしましょう。人の話の中に思わぬ発見があります。だから仲間と学習するのです。特に数学は答えを出すまでの筋道が大切です。日頃から人の話に耳を傾けましょう。
- ・ 具体的な学習方法ですが、まずは授業を大切にしてください。流れに沿った継続的な学習はとても効果的なものです。授業はその流れの源になります。授業→復習→予習→授業の流れが身につけば、それが大きな実力につながっていくはずで。
- ・ 特に確率や図形の学習は実生活に応用が利くものばかりです。日ごろ生活する上で、数学の学習がいろいろな所に役立っていることを学びましょう。

4 課題・補習について

- ・ 2回の長期休業には、課題を出します。それに伴い、課題テストを実施します。
- ・ 進路補習は年間で後期1回、希望者を対象に行います。授業内容はもとより、就職試験等にも対応します。

情報処理科・経営管理科 2年A・B・C・D組

教科名	数学	科目名	数学 A	(2単位)
-----	----	-----	------	-------

5 年間の学習計画

月	単元名	学習の内容	評価方法 (課題等)
4	第1章 場合の数 第1節 集合の要素の個数 1. 集合 2. 集合の要素の個数 3. 樹形図、和の法則	集合と要素 部分集合 補集合 共通部分と和集合 集合の要素の個数 倍数の個数 樹形図	授業態度 課題提出状況
5	4. 積の法則 5. 順列	積の法則 順列の総数 順列の考え方の利用	
6	6. 円順列と重複順列 7. 組合せ	円順列 重複順列 組合せの総数 組合せの考え方の利用 同じものを含む順列	
7	第2節 確率 8. 事象と確率 9. 確率の基本性質 10. 確率の基本性質	試行と事象 同様に確からしいときの確率 いろいろな事象の確率 確率の基本性質	授業態度 課題提出状況 課題テスト
9	11. 和事象の確率 12. 余事象の確率 13. 独立な試行の確率 14. 反復試行の確率 15. 条件付き確率	排反事象 排反事象の確率 余事象とその確率 独立な試行の確率 くじ引きの確率 反復試行の確率	
10	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1. 角の二等分線と比 2. 三角形の外心、内心、重心 3. 三角形の辺と比の定理	線分の内分と外分 角の二等分線と線分の比 後期中間考査 三角形の重心 三角形の内心と傍心 三角形の外心と垂心	
11	4. 円周角の定理 5. 円に内接する四角形 6. 円と接線 7. 接線と弦の作る角 8. 方べきの定理 9. 2つの円	円周角の定理 円周角の定理の逆 円に内接する四角形の性質 円の接線 接線と弦のつくる角 方べきの定理 2つの円の位置関係	後期中間考査
12	10. 作図 11. 線分の長さで作図	内分する点、外分する点の作図 いろいろな長さの線分の作図	授業態度 課題提出状況 課題テスト
1	第2節 空間図形 12. 空間における直線と平面 13. 多面体	直線と平面の決定 2 直線の位置関係 2 平面の位置関係 直線と平面の位置関係 3 垂線の定理	
2 3	課題学習		学年末考査